



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令和8年4月8日
函館開発建設部

令和8年度北海道開発事業費

(函館開発建設部実施分)の概要について

令和8年度北海道開発事業費（函館開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部

全体	広報官	中 ^{なか} 寛志	(電話 0138-42-7702)
治水関係	工務課長	中尾 ^{なかお} 玲紀	(電話 0138-42-7602)
道路関係	道路計画課長	別府 ^{べつぷ} 準也	(電話 0138-42-7614)
港湾・空港・水産関係	築港課長	鈴木 ^{すずき} 誉久	(電話 0138-42-7635)
農業関係	農業開発課長	濱下 ^{はました} 尚志	(電話 0138-42-7647)

函館開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/hk/>



令和8年度

北海道開発事業費の概要

令和8年4月

函館開発建設部

令和8年度 函館開発建設部事業費総括表

(事業費)

(単位:百万円)

事 項	予 算 額	備 考
治 水	1,223	
道 路	23,709	
港 湾 整 備	1,530	
空 港 整 備	731	
農 業 農 村 整 備	1,142	
水 産 基 盤 整 備	2,239	
合 計	30,574	

(注)1 農業農村整備及び水産基盤整備を除き、工事諸費は含まれていない。

2 治水には都市水環境整備を含む。

3 四捨五入の関係で計と内訳が一致しないことがある。

◆治水事業

後志利別川は、その源を今金町の長万部岳に発し、せたな町において日本海に注ぐ、幹川流路延長80km、流域面積720km²の道南で唯一の一級河川です。自然環境が豊かな清流河川として有名で、全国一級河川の水質現況調査結果では全国最多の24回「水質が最も良好な河川」に選出されています。

第9期北海道総合開発計画における生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりを目的に、気候変動の影響により激甚化・頻発化する風水害等に対応するため、「第1次国土強靱化実施中期計画」に基づく対策の推進や、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む流域治水を更に加速化・深化させるために取りまとめた「後志利別川水系流域治水プロジェクト2.0」に基づき、ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進します。

また、川の自然環境や景観、水辺の活動、サイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用を促進し、北海道らしい地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進します。



「流域治水」の施策のイメージ

1 河川事業

後志利別川河川整備計画に基づき河道掘削等のハード対策を行うとともに、住民等が迅速に避難できるよう河川情報や河川監視機器の充実を図り、それらの情報提供等のソフト対策を行います。

また、堤防や樋門など河川管理施設の機能を維持するため、堤防除草や河川管理施設の点検整備、河川巡視等を行います。



河道掘削状況

2 ダム管理

美利河ダムは、複合型ダムとしては日本一の堤頂長1,480mを誇る、洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用水の補給及び水力発電を目的とした多目的ダムです。また、海域からダム上流域の河川への連続性を確保するため、平成17年に美利河ダムに2,400mの魚道を整備し、回遊性の魚類の利用が確認されています。利水の安定供給や洪水時のダム機能を確保するため、ダム施設の点検整備・更新、観測・操作及び流木処理等を行うとともに、引き続き魚類調査や魚道内の魚類分布調査を行います。



美利河ダム

事業別	地区別等	事業の概要
河川改修	後志利別川	河道掘削等
河川維持修繕	後志利別川	堤防・水閘門等維持管理、河川巡視等
堰堤維持	美利河ダム	ダム管理施設の維持管理・修繕等

◆道路事業

北海道開発については、「第9期北海道総合開発計画」（令和6年3月12日閣議決定）において、多様な主体と「共に北海道の未来を創る」ことをコンセプトに、北海道の強みである「食」、「観光」、「再生可能エネルギー」のポテンシャルを踏まえ、豊かな北海道を実現し我が国の経済安全保障に貢献することを目指し、北海道の価値を生み出す「生産空間」の維持・発展を図ることとしています。

道路における具体的な取組としては、「世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成」の実現に向け、農水産物等の輸送を支える高規格道路の整備等を推進します。また、「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」に向け、シーニックバイウェイ北海道、サイクルツーリズム等を推進します。さらに「ゼロカーボン北海道の実現」に向け、道路照明灯のLED化によるCO₂排出量の削減を推進します。

気候変動により激甚化・頻発化する水災害や巨大地震等の大規模災害、インフラの老朽化の現状等を踏まえ、「生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり」の実現に向け、災害時における代替性確保のための高規格道路整備や基幹的な道路ネットワークの強化、社会経済活動を支える道路施設の予防保全型のメンテナンスへの転換、i-Snow等のインフラ分野のDX化による現場の生産性・効率性の向上を推進します。

1 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

○高規格道路ネットワークの整備

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靱性を確保し、地域間の連携強化を図るため、高規格道路ネットワークの整備を推進します。



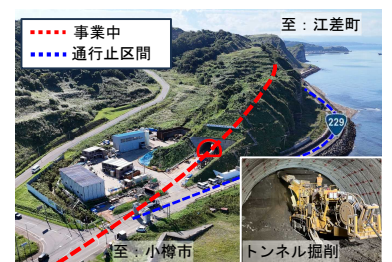
北海道縦貫自動車道 七飯～大沼

2 激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成

○災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの強靱化

災害からの迅速な復旧と、早期の日常生活・経済活動の再開を図るため、災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築を推進します。

気候変動に伴い激甚化・頻発化する気象災害、切迫する大規模地震や急速に進む施設の老朽化等に対応するべく、災害に強い国土幹線道路ネットワーク等を構築するため、高規格道路ネットワークの耐災害性強化や老朽化対策等の抜本的な対策を含めて、防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図ります。



国道229号 乙部防災
(トンネル掘削)



国道278号 尾札部道路

○防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術等を積極的に導入しつつ、事業のスピードアップを図ります。



国道5号 無電柱化状況

○社会経済活動を支える道路の維持・除雪、老朽化対策及び防災

安心・安全な道路交通を確保するため、道路の維持・除雪及び各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。

また、災害発生時における被災地の支援のため、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊：リエゾン^注）を含む等により、被害拡大の防止、被災自治体管理施設の被災状況の調査、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）



老朽化対策（トンネル補修）

○安全・安心な移動環境の確保

事故多発区間での事故データを用いた分析やビッグデータを活用した潜在的危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」^{*}を推進します。

また、生活道路における速度抑制や通過交通の進入抑制を図る面的対策の検討において、ETC2.0プローブデータを活用した分析により自治体を支援し、安全・安心な道路空間の整備を推進します。

^{*} 事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組。



交通安全対策
（ランブルストリップス）

3 多様で豊かな地域社会の形成

○「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常生活サービス機能を「道の駅」に集約するなど地域の拠点づくりを支援していきます。

また、「道の駅」の交通結節点化や防災拠点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進します。



防災訓練 道の駅「YOU・遊・もり」

4 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

○「シーニックバイウェイ北海道」の推進

ドライブ観光を推進する「シーニックバイウェイ北海道」では、地域が主体となり、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを進めています。

管内では「函館・大沼・噴火湾ルート」と「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」の2つが指定ルートとなっており、地域の魅力を高める活動が行われています。



函館新道 シーニック de ナイト

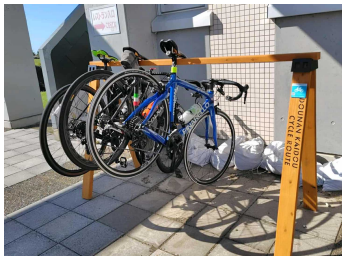
○サイクルツーリズムの推進

世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、令和5年度にサイクルルートに追加された「どうなん海道サイクルルート（道南サイクルツーリズム推進協議会）」等、地域と連携し、安全で快適な自転車走行環境の整備やサイクリストの受入環境の充実、情報発信及び地域独自の取組など、官民一体となって推進します。



「どうなん海道サイクルルート」

【サイクリストの受入環境の充実】



サイクルラック利用状況
道の駅「上ノ国もんじゅ」

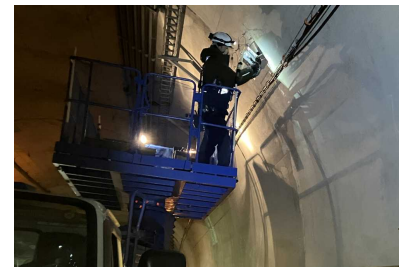
インフラ有効活用による地域振興
(函館・江差自動車道)
「アイアンマンジャパンみなみ北海道大会 2025」



5 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

○再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

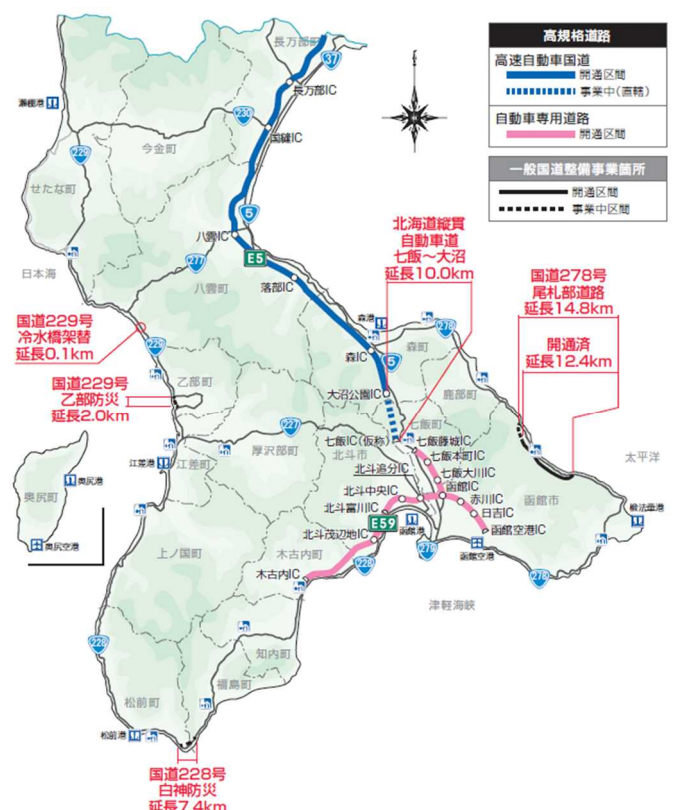
地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組として、従来の照明よりも消費電力を削減できるLEDへの転換を促進し、CO₂排出量の削減を推進します。



道路照明灯のLED化整備状況

道路事業の概要

事業内容	主要事業
高規格道路	E5 北海道縦貫自動車道 七飯～大沼
改築・防災	国道228号 白神防災 国道229号 冷水橋架替、乙部防災 国道278号 尾札部道路
交通安全対策	国道 5号 宿野辺付加車線整備 駒ヶ岳中央帯整備 ◎小沼中央帯整備 国道228号 かもめ島入口交差点改良 国道230号 神丘視距改良、今金路肩改良 国道277号 鉛川視距改良
無電柱化	国道 5号 函館若松電線共同溝 赤松街道電線共同溝 国道279号 十字街電線共同溝
維持修繕	河川隣接道路構造物の流失防止対策 道路施設の老朽化対策 等



※◎は令和8年度新規事業化した事業

令和8年度の道路調査の見通しについて(ネットワーク)

個別路線の事業化に向けて、ルート・構造検討に係る調査等を進めます。
主な調査箇所は、下記の通りです。

【主な調査箇所】

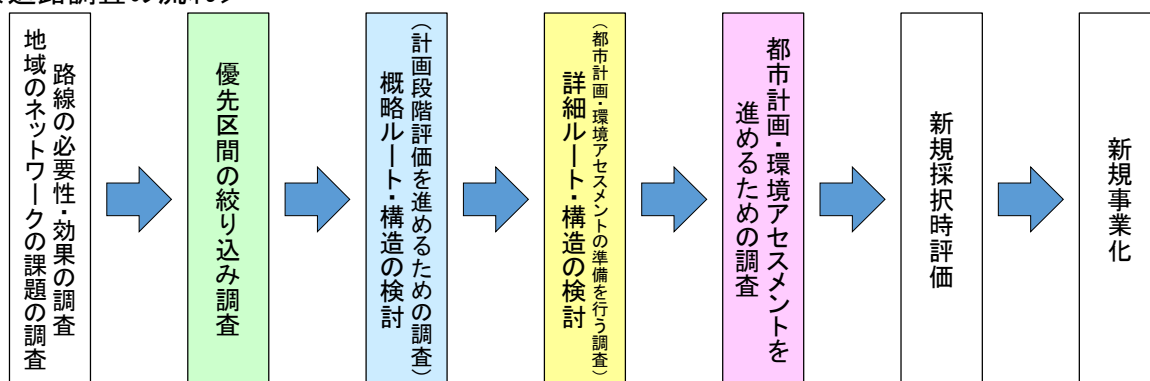
概略ルート・構造の検討(計画段階評価を進めるための調査)

北海道縦貫自動車道 七飯^{ななえ}藤城^{ふじしろ}～七飯^{ななえ}

その他の未整備区間についても、当該地域の交通状況、社会経済状況や道路網の課題等を調査し、優先区間の検討や道路網の中での必要性・整備効果の整理等を進めます。

また、渋滞や交通安全など、地域における道路交通に関する課題、サービスレベルを把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、路線の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

<道路調査の流れ>



◆港湾整備事業

管内の港湾は、渡島・檜山地域の物流拠点として重要な役割を担っており、特に、函館と青森を結ぶ青函航路は、北海道と本州間のフェリー貨物輸送の約3割を占めるなど、北海道産の生鮮食料品等を移出する重要な航路となっています。

重要港湾函館港や各地方港湾では、国土強靱化の推進とともに、港湾機能の充実や離島住民の生活安定向上などを図るための港湾整備を進めています。

1 重要港湾函館港の整備

重要港湾函館港は多様な海事関係の官公署や研究機関が立地しており、調査船や作業船の基地港として利用されています。令和8年度は、学術研究機関が集積した『国際水産・海洋総合センター』と調査船等の係留の一体化を目指し、水産・海洋研究ゾーン形成に向けた弁天地区の整備を進めるとともに、国土強靱化の推進による防波堤や臨港道路の老朽化対策を進めます。



重要港湾函館港弁天地区

2 地方港湾の整備

地方港湾奥尻港ほか4港では、国土強靱化の推進による老朽化対策、港内静穏度の確保等、港湾の効率的な利用を図るため、岸壁、防波堤、泊地等の整備を進めます。



江差港フェリー岸壁の整備

港 湾 名		地区名	事 業 の 概 要
重 要 港 湾	函館港	弁天地区	水深5m岸壁改良
		本港地区	西防波堤改良、道路改良
地 方 港 湾	森港	本港地区	西防波堤改良
	榎法華港	本港地区	東防波護岸改良
	江差港	本港地区	水深5m北岸壁改良、南道路改良
	奥尻港	本港地区	護岸、南道路、東防波堤改良
	瀬棚港	本港地区	水深6.5m泊地

◆空港整備事業

函館空港は函館市内中心部から東へ約10kmと好立地に位置し国際線2路線（3社）、国内線6路線（3社）の計8路線を有する道南の空の玄関口となっています。

旅客数は北海道内で新千歳空港に次いで2番目に多い空港で、令和元年の国際線旅客数は、平成24年の約2.5倍に増加しています。

なお、令和3年3月1日から北海道エアポート（株）により、空港運営事業（運航情報、保安防災、施設管理、灯火電気など）を開始しています。

函館空港では、豪雨による空港施設の浸水を防止するため、排水機能強化による浸水対策のほか、滑走路端安全区域（RESA）の整備に向けた調査を行います。



函館空港 浸水対策整備箇所

空港種別	空港名	事業の概要
拠点空港(国管理空港)	函館空港	浸水対策、滑走路端安全区域(RESA)

◆農業農村整備事業

管内の農業は、道内で最も開拓の歴史が古く、比較的温暖な気候を生かし、米や野菜を中心に、ばれいしょ・豆類等の畑作物、さらに酪農・畜産を含めた多様な農業が展開されています。

農業農村整備事業は、「担い手への農地集積・集約」、「農業の高付加価値化」や「老朽化や災害リスクに対応した農業水利施設の戦略的な保全管理と防災・減災対策」等の実現を目標に、農地の大区画化や汎用化、基幹的な農業水利施設の適切な更新・長寿命化等を実施するものです。

事業実施地区

○国営緊急農地再編整備事業

今金町及びせたな町において、農地の大区画化、排水改良、用水施設の整備などの基盤整備と併せて担い手への土地利用集積を進め、生産性の向上と優良農地の確保を図る「今金南地区」及び「今金北地区」の事業を推進します。



○国営かんがい排水事業

北斗市において、用水不足の解消等に対応した用水再編を行うとともに、ダム、用水路の整備とダム付帯施設の耐震化対策を一体的に実施し、併せて小水力発電施設を整備し再生可能エネルギーを導入することにより農業用水の安定供給、施設の維持管理の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資する「北斗用水地区」の事業を推進します。



事業実施地区

事業種別	地区名	関係市町名	受益面積	事業の概要
国営緊急農地再編整備事業	今金南地区	今金町、せたな町	1,224ha	区画整理 1,224ha
	今金北地区	今金町	1,536ha	区画整理 1,013ha 頭首工1箇所、揚水機場1箇所
国営かんがい排水事業	北斗用水地区	北斗市	1,236ha	ダム(改修) 2か所 用水路(改修) 6条 L=2.8km

◆水産基盤整備事業

管内の漁業は、古くからニシン漁で栄え、現在も恵まれた水産資源を基に、日本海・津軽海峡のイカ釣り・マグロ漁、太平洋・噴火湾のホタテガイ・コンブの養殖、冬場のスケトウダラ漁など、多種多様な漁業が営まれており、地域の基幹産業となっています。

管内の第3種及び第4種漁港は、安全・安心で新鮮な水産物を安定的に供給するため、水産物の生産・流通拠点としての役割や近隣海域で操業する漁船の避難拠点としての役割を担っています。

令和8年度は、「水産業の成長産業化に向けた拠点機能強化対策」として岸壁や道路の整備、「持続可能な漁業生産を確保するための漁港施設の強靱化・長寿命化対策」として防波堤や護岸などの整備を推進します。



令和8年度 水産基盤整備事業の概要

事業区分	地区名	事業の概要
特定漁港 漁場整備 事業	青苗地区 (第3種青苗漁港)	南防波堤改良
	江良地区 (第3種江良漁港)	西防波堤改良、波除堤(畜養)
	福島地区 (第3種福島漁港)	水深3.5m岸壁改良、道路改良、用地改良
	臼尻地区 (第3種臼尻漁港)	臨港道路、北防波堤改良、水深4m岸壁改良
	砂原地区 (第3種砂原漁港)	水深5m岸壁改良、水深4m岸壁改良、水深3m岸壁改良、道路改良、用地改良
	函館管内地区	【神威脇漁港】北護岸補修 【熊石漁港】南防波堤補修 【青苗漁港】用地(人工地盤)補修 【大島漁港】水深3.5m泊地補修、水深3.5m岸壁補修 【函館漁港】道路補修 【山背泊漁港】南護岸補修 【臼尻漁港】道路補修